

開かれた学校づくりをめざして

I 研究の内容

1 研究の方法

(1) 研究の柱

- ・学校と地域との関わり方・連携の方策について
- ・学校・子どもたちと地域の人々のつながりを生み出す実践
- ・研究の成果の共有（情報の発信も視野に入れながら）

(2) 各部員が、各校の実践（子どもたちの変容の様子、問題点、悩み等）を報告し、それについて情報交換・協議し、研究を深める。夏季学習会では講師を招き理論研究を行う。常任講師の先生方に、常時ご助言・ご指導をいただく。

(3) 保護者・地域との連携について授業実践を通して研究を深める。

2 実践発表と授業研究

(1) 神金小「ふるさと山梨道徳推進事業」の実践発表

- ・礼儀，生命尊重，郷土愛に関わる取り組みなど学校全体での活動，学校林活動，道徳教育ボランティアスタッフによる道徳講話の実践報告。

(2) 加納岩小「保護者・地域住民との交流，取り組み」の実践発表

- ・「有価物回収，花いっぱい活動，グランドゴルフ，学年親子活動，PTA各専門部の活動」の報告。

(3) 玉宮小「ふるさと山梨道徳推進事業」の実践発表

- ・小・中学校が連携した道徳教育の充実のための手立てや道徳の授業に保護者や地域の方が参加する手立て等，家庭，地域と連携した道徳的実践活動の報告。

(4) 後屋敷小「学級活動・食育」の実践発表

- ・「よくかんで食べよう」～栄養士と担任が食育の指導という観点から保護者にも授業づくりの協力や参観を得た授業の報告。

(5) 東雲小「保護者・地域との関わりのあった学年の取り組み」の実践発表。

- ・教科，全校食育，親子レク，学校行事，PTA活動などの報告。

(6) 夏季学習会…授業案検討・実践発表（勝沼小・日川小）・臨地研修

- ・「保護者・地域と連携した取り組み」の実践発表。学校支援ボランティアについての報告。
- ・家庭・地域との連携…授業での地域人材の活用，PTAとの連携活動等の報告。
- ・臨地研修…「景德院」「大日影トンネル」等，甲州市の文化財を視察

(7) 統一授業研究 第6学年 総合的な学習の時間「将来の夢を語ろう」

古屋雅章先生（加納岩小学校）

ねらい…○講師の話聞き、仕事に対する思いや考え方を知ることができる。

○友達の発表を聞いて考えを共有し合うことで、「働くこと」に対する考えを深めることができる。

授業の流れ…二人の講師の方の話聞く。講師の方の話から、これまでの自身の仕事に対する考え方と比べながら、自分の考えをワークシートにま

とめる。まとめた考えをグループで交流し合う。

児童の様子…児童は、メモを取りながら真剣に聞き、質問をし、講師の方の仕事に対する思いや考え方を自分のものとしてとらえていた。これまでの学習を振り返りながら自分の考えをまとめることができ、「働くこと」に対する自分の考えを深めることができた。

- (8) 日下部小「保護者、関係機関との連携、学校行事等へのPTAとの協力」の実践発表・個に応じた自立への支援、PTAとの協働・協力を得る中での活動。
- (9) 松里小「地域の方々や小さい子どもとの交流をねらいとした取り組み」の実践発表。・児童会行事、ボランティア活動などの紹介。
- (10) 授業研究 第1学年 道徳 主題名「こまっぴいるともだちに」2-(3) 友情・信頼・助け合い 村田 裕美先生 (神金小学校)

ねらい…友だちと仲良くし、助け合う気持ちを育てる。

授業の流れ…資料をもとに、役割演技を取り入れたりワークシートに気持ちを書いたりして考え、みんなの前で発表する。友達が困っていた時に助けてあげたことを振り返り発表する。担任・保護者からの手紙を受け取り読む。

児童の様子…児童は集中して興味深く話を聞き、内容を理解していた。自分の考えや思いをワークシートに記述し、友達に伝えることができた。また、教師・親からの手紙を読み、友達にやさしくできている自身を実感し、友達を大切にすることの良さを感じ取ることができた。

II 成果と課題

1 成果として

- 研究授業では、保護者や地域との連携によって授業内容の深まりや子どもの興味関心が深まることが分かった。日頃から保護者や地域とのつながりを強くしておくことが重要である。また、授業の中での連携は打ち合わせを密にし、授業の意図をしっかりと伝えることも必要である。
- 子どもを中心とした授業実践を通して検証するスタイルをとっているのが、他郡市にない良さである。
- 各校の実践発表では、「開かれた学校」「地域との連携」について、新しい視点を持った提案がたくさんあり、地域や保護者との連携を教育活動の中に効果的に生かす方策を知り、共有することができた。
- 夏季学習会では、臨地研修を行い、地域を学ぶ良い機会となった。

2 課題として

- 保護者や地域との連携については、新しいことを次々と取り入れるのではなく、継続していくこと、今あるもの(教科・学校行事等)を意識して取り組んでいくことも大切ではないか。
- 保護者・地域、外部との連携は増えてきているが、学校(子どもも含む)と外部とつながりは強くなっているかは疑問である。目的をもって共通理解のもとで継続して行っていくことが大切ではないか。

III 成果物

- 学習指導案2本・学習ワークシート ○各校の実践レポート ○臨地研修資料
(部長 加々美 教子)